



1 課題

小規模校では児童生徒数の減少により、子ども同士が協働で学ぶことが困難となり、対話や議論を通じて視点を広げながら個人や集団としての意見を形成したり、多人数を相手に説明したり発表したりする活動が難しくなっている。

2 概要

広島大学教育ビジョン研究センター（EVRI）が開発した「のん太の学び場」（東広島市地域学習用デジタルコンテンツ）と市教育委員会が作成した小学校社会科副読本を効果的に連携させた広域交流型オンライン学習を実施する。



大学

草原 和博

広島大学

大学院人間社会科学研究所 教授



市担当課

×

教育委員会

学校教育部教育総務課



▲オンライン地域学習の様子



▲東広島市内はもとより、全国各地からの中継を交えながら、地域の課題について対話的・双方向的に学ぶことができる。

3 研究成果 手法等の構築

東広島市内の小学校・学習対象となる施設・広島大学等をオンラインでつないだ遠隔授業を実施した。令和5年度は延べ約3,000人の児童生徒が参加した。社会参加意識の向上やデジタル公共圏の構築が確認された。

4 今後の展望・現状 担当課で事業実施

令和5年度以降は指導課が担当している。令和5年8月に内閣府の「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第3期」に採択され、公共的対話のためのカリキュラムの開発、本授業に保護者・地域人材・不登校児童生徒が参画できる社会基盤の開発、離れた教室の意見を自動で収集・分類するAI学習支援技術の開発等、これまでの研究の深化・発展を図っている。令和6年度も継続して遠隔授業を実施し、多様な価値観を持つ子どもや市民等がオンライン空間を介して対話を行い、協働して課題解決や社会づくりに参画する教育システムのモデル化と全国展開を推進している。



1 課題

福富町や豊栄町、河内町などの中山間地域では人口減少が続き、過疎化と高齢化が深刻な問題となっている。近年、自然史資料が散逸・消失の危機にあることが全国的な問題になっており、広島県においても、県標本6万点が活用の目途がつかない状態で保管されている。

2 概要

豊栄支所の遊休スペースを活用し、自然史に関わる資料や情報を安定的に保存するとともに広く市民に公開し、学校教育・社会教育に活用することによって交流人口の増大、地域の活性化を目指す。

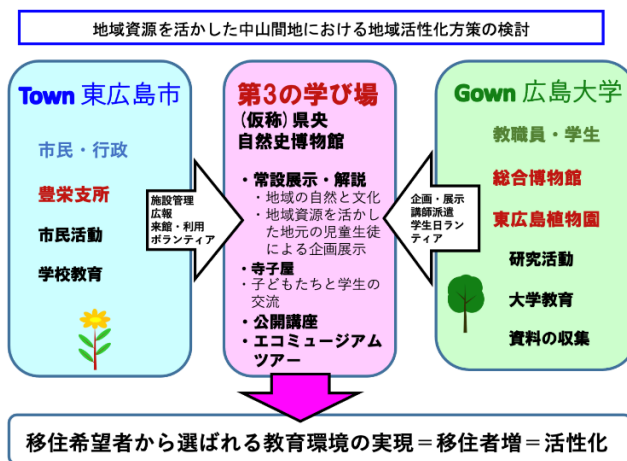
大学

中坪 孝之

広島大学
総合博物館 館長

×

市担当課

総務部
政策推進監

▲展示の様子

▲研究イメージ

3 研究成果 データ取得・分析

豊栄支所の遊休スペースを活用し、市と大学の共同による博物館展示を整備し、自然学習講座を開催した。7月22日から9月11日までの開催期間中に、延べ2,442人の来場者があり、来場者の97%から「とてもよかった」、「まあよかった」の評価を受け、自然科学教育への関心が一定程度存在することが確かめられた。

4 今後の展望・現状 次の研究段階へ前進

令和5年度のCOMMONプロジェクト共同研究型として継続実施。